



議会だより

第38号

2016・4・27

3月定例会

一般質問
委員会審議
議員研修・議会のうごき
急傾斜地農業研修会

2~5頁
6~12頁
13頁
14頁



町政のことこが聞きたい



小野 誠治
議員

質問 小野

社会環境の変化により消防団員が減少しており、つるぎ町消防団も消防団員の高齢化、団員の確保に課題を抱えているのではないか。

消防分団の枠組み、消防団への出動要請の連絡体制の見直し、消防団間の協力体制の明確化、情報共有を含めた改善、改革が必要である。こうした現状と課題を踏まえ、どのように考えているのか。

答弁 村上危機管理課長

消防団の規則及び組織の連絡体制は、美馬西部消防組合消防団の条例に

おいて、団員は、団長の招集によって出動し服務に従事するものとなっている。

しかし、実際の消防団の活動状況については、火災等で119番に電話をかけると、昨年から美馬市と

共同運営を実施している「美馬地区消防指令センター」から、消防団長・副団長・管轄地区の分団長に順次指令メールを専用パソコンからサーバーを通して連絡している。その出動指令を受けて管轄分団長から分団員にメール等の連絡をしながら火災現場に出動し、現場に於いて団長の指揮下の元に活動しているのが消防団員の現状である。

「美馬地区消防指令センター」から、管轄地区の分団員全員に指令メールを送信できれば、分団長が団員への連絡の負担も軽減で

きると考えているが、現状のサーバーを通して順次メールを送信すると、最後まで送信に約40分の時間

を要するため、全分団員の出動には対応できない。

将来的には、携帯電話の普及率も向上しているのが現状なので、管轄地区の全分団員に指令メールが届くことが、緊急対応の第一歩と位置づけ、美馬西部消防組合や美馬市消防と協議調整しながら随時整備していくよう強く要望したいと考えている。

また、連絡体制の強化のみならず、消防資機材の充実、組織体制の整備、運用体制の調整等を適切に実施しながら、「地域防災力」の中核を担う消防団の改革と対応力の向上を図る努力をしていきたいと考えている。



谷川真二
議員

質問 谷川

給食は学校生活の中で最も最も印象に残る生活の一一部分であり、子ども達に食に対する正しい知識と食を選択する力を身につけてさせる教育の面においても大切な役割を担っており、安心安全な学教給食を定期的に提供することが求められている。

現在における美馬西部学校給食センター組合の施設の概要、また調理体制はどうのようになつていているのか。

答弁 横野教育長

対象地域はつるぎ町と美馬町で、学校数は、幼稚園が7園、小学校が9校、中学校が3校の合計19である。また給食人数としては、幼稚園が185人、小学校が658人、中学校が399人の合計124人となつてている。

また、経費の負担金割合は均等割りが5%、児童生徒数割りが95%となつ

は昭和45年8月20日、給食開始が同年9月7日で45年以上経過している。敷地の広さは約2000m²で、建物は鉄骨ブロック造平屋建1部2階建、延床面積1152m²である。車両は、配送料用トラックが5台、軽トラック2台である。

ており、平成27年度の負担割合は、つるぎ町が52・2%、そして美馬市が47・8%となっている。

質問 谷川

学校給食における食物アレルギーの対応は、どのように行っているのか。

答弁 横野教育長

給食センターでは、アレルギー疾患児童等の保護者から学校生活管理指導表を学校経由で提出していただき、それに基づきアレルギー食の対応をしている。

ウイ、そば、アーモンドとなつてている。

質問 谷川

給食センター施設老朽化に対してどのようなビジョンを持っているのか。

答弁 兼西町長

給食センターは、子ども達に安心して給食を配食する非常に重要な施設であると認識している。

しかし、建物は築45年が経過して、著しく老朽化が進んで耐震力の低下も懸念されている。

28年度から美馬町の幼稚園4園が認定子ども園に移行し、自校給食となることや児童等の減少に伴う、配食数の推移を見極めると共に、財源確保のタイミングを考慮し、総合的に給食センター施設の老朽化に対する対応を考える必要があると判断している。

質問 古林企画課長

考へているのか。



三好昭義議員

また、センターの調理等運営方法も学校給食法の規定により文部科学大臣が定める現在の「学校給食実施基準」に、例えば調理室の床とか水栓等、合わないところも多く、県の指導で指摘を受けている。

平成26年12月の大雪では、半田川又地区より八千代全域の停電、また電話の不通等、各地域で大きな被害が発生した。その停電等の原因は大雪による倒木などであった。

そのような被害を防ぐためにも、道路沿いの電線及び電話線上の立木伐採についてどのような対策をする。

また、牛乳以外の食品で、現在アレルギー食が対応が出来るのは、卵、エビ、キ

た原因のひとつに立木からの漏電が原因であつたと聞いている。素人の場合は感電するという危険もあるのでその辺のご理解もお願いしたい。

答弁 古林企画課長

考へているのか。

先の災害でも停電になつた原因のひとつに立木からの漏電が原因であつたと聞いている。素人の場合は感電するという危険もあるのでその辺のご理解もお願いしたい。

質問 古林企画課長

28年度から美馬町の幼稚園4園が認定子ども園に移行し、自校給食となることや児童等の減少に伴う、配食数の推移を見極めると共に、財源確保のタイミングを考慮し、総合的に給食センター施設の老朽化に対する対応を考える必要があると判断している。

質問 古林企画課長

考へているのか。

先の雪害では、倒木による電線及び電話線の切断で、や道路の通行不能によって集落の孤立化が起きた。その際、冬場に暖房器具が使えないなど、住民生活に支障が出たにもかかわらず、電話線も切斷されて、安否確認や生活支援対策が思うようににはかどらず、住民の皆様にはご心配をおかけした。

道路沿いの電線及び電話線に影響のある立木について、情報を役場が得た段階で、四国電力やNTT西日本などの関係団体と協力しながら災害予防に努めたいと考えて

質問 三好昭義議員

今後とも、四国電力や

NTT西日本などの関係団体と協力しながら災害予防に努めたいと考えて

質問 三好昭義議員

今後とも、四国電力や

NTT西日本などの関係団体と協力しながら災害予防に努めたいと考えて

質問 三好

大雪災害時、山間部等の独居老人家庭への支援や安否確認のための資機材等の購入についてどのように考えているのか。

答弁 村上危機管理課長

つるぎ町では、先の大雪の経験を無駄にしないために、あらゆる災害に対応できるよう、停電時に有効な「小型ガス発電機」、「LED照明器具」、「衛星携帯電話」や避難所に必要な「非常食」、「飲料水」、「毛布」等を逐次購入し、非常時に対応できる体制を計画的に進めている。

「スノーシュー」、「かんじき」、「アイゼン」等の備品については、装備していないが、一昨年の大雪災害時には、徳島県と自衛隊の装備品を借りて使用した。

今後は、大雪等の災害を想定して、「スノーシュー」



①スノーシュー
②かんじき
③アイゼン

等の整備も検討しながら、大規模災害の発生に備えて実行力のある対応ができるよう、計画性をもつて必要な防災資機材を整備し、防災力の強化を図りたいと考えている。

質問 佐藤



佐藤千代美 議員

世界農業遺産に登録することは、農業文化の維持だけでなく自然保護にも繋がっていると「第2次つるぎ町総合振興計画」にあつた。このことに関してもどのような対策を考えているのか。

答弁 篠原商工観光課長

動植物の生態系のバランスは人間の営み、ここでいう「傾斜地農業」と深く関わっている。急傾斜地農業システムは、カヤ場など採草地を維持管理することで、70種以上に及ぶ貴重な植物を保全している。この農業が自然保護につながっているという証しだり、採草地の利用と管理

を行うため、担い手の育成や獣害対策など、講じている。

在来農業が世界から観光客を導くということで、どのような対策を進めていくのか。

答弁 篠原商工観光課長

山の上部から広がる集落の「美しい景観」と共に、天日干しでうま味を増す蕎麦や雑穀、野菜や芋を使つた「素朴ながら地味豊かな食文化」は、日本の原風景や本物体験として、感動や共感を呼べる新しい魅力ある観光資源となり得るものと考えている。

修学旅行の民泊家庭受け入れにより、農山村の生活、仕事、人との交流ということで、在来農業は多くの人々に理解され進展することができる。こうした観光についてどのように対策を考えているのか。

質問 佐藤

また、一宇の久蔭地区では民宿が2軒に増えており、山間地でも経済効果を深めることができると感じている。その中で、生徒は農業体験や宿泊などを通して、周りの景観や暮

在観光、いわゆるグリーンツーリズムが取り組める環境を整えていく必要があると認識している。交流商品を充実させるほか、一般社団法人そらの郷や民間旅行業者による交流人口の増加を目指し展開を図っているところである。

答弁 篠原商工観光課長

民泊受け入れ家庭の取り組みにより、理解の進度を深めることができると感じている。その中で、生徒は農業体験や宿泊などを通して、周りの景観や暮

らし・温かい食べ物と1泊2日に及ぶ、家族のようないく。さらに受け入れ家庭も喜ぶという満足度の高い事業になつていて。

一方で、毎年受け入れ家庭を対象とした安全対策や研修を定期的に開催することで、自己啓発を図りながら、受け入れ家庭の施設への進化をしていけば

拡大、さらには民間宿泊施設への進化をしていけばと考えている。

質問 佐藤

農山村の観光化は、山間部だけではなく、市街地を含めた全てとを考えている。つるぎ町の観光についてどのような対策を考えているのか。

答弁 篠原商工観光課長

永井家庄屋敷や織本屋など、町並みのガイドも兼ねた管理人を常駐させることで、市街地を含めた観

光にも力を入れている。昨年12月には、この織本屋に

おいて世界農業遺産に関するイベントを開催、今年4月には恒例の「桃花遊々」イベントで世界農業遺産にちなんだひな祭りが予定されるなど、町部にも広がりを見せていている。

一方で、本町の総合パンフレット及び町のホームページ等での情報発信を行つており、特に桜をはじめ主要な花や紅葉の見どころについての情報は、観光客のニーズに応えられるよう、常に更新しているところである。

今後はこういった来客による経済効果が現れるような仕組みづくりを構築していくことをしたいと考えている。

質問 佐藤

大雪や台風被害により山林では竹や木が倒れている。修学旅行の子ども達や観光客が景観を楽しむことが出来るように山林整備は必要である。その対策はどのように考えているのか。

答弁 山本農林課長

近年の台風、大雪などにより山林の倒木被害が多く発生しているが、山林所有者の高齢化により、多くの山林で未整備なのが現状となつてている。

このことから、森林被害を受けた場合には、森林組合などが事業主体となる補助事業を活用し、切り捨て伐採、また要件を満たす場合は搬出間伐をするすすめしている。倒木した杉や桧は、資源活用の一環として木材業者によるチップ、あるいはバイオマ

ス事業に利用価値があることから、山林所有者から申し出があつた場合、関係機関と協議しながら森林

整備につなげていきたいと考へていて、本年度、サル被害の多い胡麻平・黒石集落においてモンキードッグの導入による、追い払い対策を実験的に行なっている。

質問 佐藤

有害鳥獣の対策についてどのように考えているのか。

答弁 山本農林課長

有害鳥獣対策の現状については、町の有害鳥獣対策協議会が実施する事業により、27年度にイノシシ168頭、シカ426頭、サル4頭を駆除したが、依然として農作物被害を減少させることには至つていない状況である。特に、

サル対策については防止効果が現れず、駆除対策とともに有効な手段がないのが現状

応へと移行させるべく、対策協議会が集落ごとの実情を整理・分析し、対応策を作成している。具体的には、本年度、サル被害の多い胡麻平・黒石集落においてモンキードッグの導入によ

る、追い払い対策を実験的に行なっている。

である。

抜本的な対策として、本町では農家単位での対応から地域集落単位での対

文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会では、主に教育、福祉、保険及び病院等に関する議案を審査します。

3月8日開催

委員長

森長秀行

副委員長

小野誠治

委員

小坂重夫

西谷一廣

佐藤千代美

利活用として、選挙の投票所、地域のイベント、公民館活動、災害時の避難場所及び施設の屋根等を活用した太陽光発電設備の設置等に利活用されている。

今後の取り組みとして、利活用を維持していくけるもの、活用が困難なもの等解体を検討すべきもの等に分類し、利活用できる施設は、町や地域の方々と協議し活用策を検討している。

平成27年度つるぎ町一般会計補正予算(第7号)によれば、眼科が4月より休止となるが今後再開の見込みは、また再開した場合の医療機械の設備は

英語研修事業は、昨年から始めた研修事業で小豆島にある施設で英語合宿を行い、1週間泊まり込みで英語学習をするものである。

議案第12号

つるぎ町立学校設置条例の一部を改正する条例

質疑(小坂)

■休廃校の利活用と休廃校の数は

答弁

利活用として、選挙の投票所、地域のイベント、公民館活動、災害時の避難場所及び施設の屋根等を活用した太陽光発電設備の設置等に利活用されて

議案第14号

つるぎ町病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例

質疑(小坂)

■眼科が4月より休止となるが今後再開の見込みは、また再開した場合の医療機械の設備は

質疑(小坂)

平成27年度つるぎ町一般会計補正予算(第7号)によれば、眼科が4月より休止となるが今後再開の見込みは、また再開した場合の医療機械の設備は

議案第15号

平成27年度つるぎ町一般会計補正予算(第7号)によれば、眼科が4月より休止となるが今後再開の見込みは、また再開した場合の医療機械の設備は

英語研修事業は、昨年から始めた研修事業で小豆島にある施設で英語合宿を行い、1週間泊まり込みで英語学習をするものである。

議案第22号

平成28年度つるぎ町一般会計予算

質疑(小坂)

■英語研修事業の内容は

答弁

英語研修事業は、昨年

から始めた研修事業で小豆島にある施設で英語合宿を行い、1週間泊まり込みで英語学習をするものである。

が見込まれる中、本年度は最終、2億6500万円の繰入額になる。

委員会での審議

質疑(佐藤)**■小・中学校郊外活動費の内容は**

方法で周知を徹底していただきたい。

答弁

それぞれの校外活動に利用するバス借り上げ料

が主な費用である。小学校

答弁

■青少年スポーツ振興補助金の内容は

協力員として住所氏名等を記入した方がいる

■生徒輸送費の内容は

■保育所等利用者負担軽減の内容は

が減少し、現在、新規貸付者はいない。

るので柔軟な対応ができるよう検討していく。

質疑(小野)**質疑(小野)**

■緊急通報装置設置者の協力員として住所氏名等を記入した方がいる

■生徒輸送費の内容は

■保育所等利用者負担軽減の内容は

きたいたい。

答弁

■青少年スポーツ振興補助金の内容は

協力員として住所氏名等を記入した方がいる

■生徒輸送費の内容は

■保育所等利用者負担軽減の内容は

きたいたい。

質疑(小野)**質疑(小野)**

■緊急通報装置設置者の協力員として住所氏名等を記入した方がいる

■生徒輸送費の内容は

■保育所等利用者負担軽減の内容は

きたいたい。

郊外活動としてはスキー体験学習や各種大会、発表会、他学校との交流学習会、社会科等の郊外学習等である。中学校活動としては剣山登山、Y M C A 活動、スキー体験学習等である。

スキー少年団5団体に補助金を出している。全体で7000円減少しているが、今年度から人數割りで計算しており増減の団体がでている。

■質疑(小野)
■奨学金制度の内容は

装置設置時、利用者と使用貸借契約書締結の際の登録情報は町が管理するると同時に、町が委託している緊急通報管理センターにも情報提供し慎重に管理を行っている。装置設置数の状況については、現在128台設置してお

学校に通学するため、小学校の児童輸送費が増額となつたが、町内全体では児童生徒数が年々減少して

いるためタクシー通学者も減少していくと思われる。平成28年度利用者数は、半田小学校15名、貞光小学校4名、貞光中学校11名が無料となっている。また、半額、第2子以降を無償とするとするものである。なお、いざれも年収360万円相当以上ある多子世帯については現行通りである。

質疑(小野)

■健康スポーツ大会の総合的な評価は

答弁

健康スポーツ大会は第1回の大会であったが、多くの参加者があり楽しく過ごしていただき大会は成功したのではないかと思つてている。一方、大会周知が充分でなかつた点もあり、昨年以上にいろんな

奨学金制度は、義務教育でない高校教育3年間に貸し付ける制度であるが、平成26年度から高校就学支援制度が始まり、殆どの世帯で高校授業料が無料となっている。また、全體枠が広いため要件の良い県の奨学金制度も紹介していることから、町の奨学金制度を利用する方

装置設置時、利用者と使用貸借契約書締結の際の登録情報は町が管理するると同時に、町が委託している緊急通報管理センターにも情報提供し慎重に管理を行っている。装置設置数の状況については、現在128台設置してお

学校に通学するため、小学校の児童輸送費が増額となつたが、町内全体では児童生徒数が年々減少して

いるためタクシー通学者も減少していくと思われる。平成28年度利用者数は、半田小学校15名、貞光小学校4名、貞光中学校11名が無料となつておらず、送迎場所は安全面を考慮し自宅に近い場所にしている。町内2業者に委託しており、10台のタクシーが運行している。

質疑(小野)**質疑(小野)**

■緊急通報装置設置者の協力員として住所氏名等を記入した方がいる

■生徒輸送費の内容は

■保育所等利用者負担軽減の内容は

きたいたい。

質疑(小野)**質疑(小野)**

■緊急通報装置設置者の協力員として住所氏名等を記入した方がいる

■生徒輸送費の内容は

■保育所等利用者負担軽減の内容は

きたいたい。

質疑(小坂)

- 保育所待機児童の状況

は

答弁

半田・貞光保育所ともに定員70名であり現在入所している児童数は半田42名、貞光56名であり待機児童はない。

質疑(小野)

- 幼稚園型一時預かり事業は

答弁

平成27年4月から子ども子育て支援制度の実施に伴い始まつた幼稚園型一時預かり事業は、通常の幼児教育時間後や幼稚園休業中の教育活動を希望される場合に利用出来る事業であり、就労している場合、求職活動中の場合、同居の親族を常時看護・介護している場合等が利用できる要件となる。

質疑(小坂)

- 子どもはぐくみ医療費の対象者は

ゼロ歳児から中学校3年生で820名を見込んでいる。

答弁

は

議案第25号

- 地域生活支援事業の委託料と補助金及び負担金の内容は。

答弁

- 地域支援事業における事業の対象者は

成年後見制度利用支援事業の対象者は

答弁

町内に居住する高齢者で、制度の利用にあたり町長が申し立てた者となる。

議案第32号

- 平成28年度つるぎ町介護保険(事業勘定)事業特別会計予算
- 地方債償還状況は

平成28年度つるぎ町病院事業会計予算

質疑(小坂)

- 平成28年度末の借入残高は、前年度を下回る予定であり、今後減少傾向で推移していく見込みである。

質疑(佐藤)

- 人間ドックの利用者数

答弁

現在2421件の検診があり、前年度より60件増えている。

議案第26号

平成28年度つるぎ町介護サービス事業特別会計予算

質疑(小坂)

- 前年度予算と比較して介護予防支援事業収入を増額予算とした理由

答弁

利用者の増加と介護報酬改定が主な理由である。

くので当面の目標は70%にしている。

議 長	小坂 重夫	委 員 長	伊庭 英俊	副委員長	長浦 英彰	委 員 長	三好 昭義	齊藤 嘉文	森長 秀行
--------	----------	-------------	----------	------	----------	-------------	----------	----------	----------

産業建設常任委員会

3月9日開催

産業建設常任委員会では、主に農林、建設、商工、観光、環境、水道及び地籍等に関する議案を審査します。

議案第15号

平成27年度つるぎ町一般会計補正予算(第7号)

質疑(三好)

■雪が降った場合の除雪

範囲は

答弁

主要幹線道の民家がある処を除雪依頼している。

質疑(小坂)

■事業の繰り越し理由は

答弁

他事業との日程調整や特注品の製作に時間を要した。また、交付決定の遅れにより入札が遅くなり正規の工程日数が年度末を超えた為である。

議案第19号

平成27年度つるぎ町特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)

質疑(三好)

■現在の整備状況及び接続率の状況は

答弁

今年度のポンプ場3期工事にて完了する。

2月末現在での接続率は下水道が84・4%、農業集落排水が94・4%である。

質疑(長浦)

■下水道マンホールと道路面に段差が生じているので舗装時などにマンホールと道路面をフランジで接続するか

答弁

今後、関係機関と協議して検討していく。

質疑(三好)

■空き家の場合、どのように手続き・対策をしているのか

答弁

空き家になれば休栓届を提出していただいており、止水栓を止めている。

今年1月末の凍結により上水道で130件、簡易水道で40件、空き家で15件の水道管の破裂が生じた。今後は、凍結予防について広報、防災無線等で周知を図っていきたい。

質疑(三好)

■青年就農給付金の内容は農業経営計画の承認を受けた45歳未満の新規農業者に対して5力年に亘り交付される給付金で、つるぎ町では半田地域で畜産業を営む1名が事業対象となつており今年が4力年目となる。

質疑(三好)

■青年就農給付金の内容は農業経営計画の承認を受けた45歳未満の新規農業者に対して5力年に亘り交付される給付金で、つるぎ町では半田地域で畜産業を営む1名が事業対象となつており今年が4力年目となる。

議案第20号

平成27年度つるぎ町水道事業会計補正予算(第3号)

質疑(長浦)

■貸倒引当金の補正額は

答弁

未収金で平成20年度、平成21年度分の回収が見込めない額を今回補正している。

質疑(三好)

工事にて完了する。

2月末現在での接続率は下水道が84・4%、農業集落排水が94・4%である。

質疑(小坂)

答弁

空き家になれば休栓届を提出していただいており、止水栓を止めている。

今年1月末の凍結により上水道で130件、簡易水道で40件、空き家で15件の水道管の破裂が生じた。今後は、凍結予防について広報、防災無線等で周知を図っていきたい。

質疑(小坂)

■つるぎ町有害鳥獣捕獲対策協議会補助金の内容は

答弁

有害鳥獣から農作物を守るために協議会が実施する事業に対する補助金で、獣友会会員に委託する捕獲補助金と農家が自衛のために設置するワイヤーメッシュ等の防護柵設置に対する経費に充当される。

質疑(小坂)

■住宅リフォームの件数は

答弁

件数は72件、補助金額として1260万円であつた。70件ほどの申し込みがあれば補正が必要となる。

質疑(三好)

工事にて完了する。

2月末現在での接続率は下水道が84・4%、農業集落排水が94・4%である。

質疑(小坂)

答弁

空き家になれば休栓届を提出していただいており、止水栓を止めている。

今年1月末の凍結により上水道で130件、簡易水道で40件、空き家で15件の水道管の破裂が生じた。今後は、凍結予防について広報、防災無線等で周知を図っていきたい。

質疑(小坂)

■つるぎ町有害鳥獣捕獲対策協議会補助金の内容は

答弁

有害鳥獣から農作物を守るために協議会が実施する事業に対する補助金で、獣友会会員に委託する捕獲補助金と農家が自衛のために設置するワイヤーメッシュ等の防護柵設置に対する経費に充当される。

質疑(小坂)

■住宅リフォームの件数は

答弁

件数は72件、補助金額として1260万円であつた。70件ほどの申し込みがあれば補正が必要となる。

質疑(小坂)

- 映画「おやじの釜めし」制作支援実行委員会補助金の内容は

答弁

この映画の脚本制作は、半田そうめん応援団長として尽力いただいている俳優の八名信夫氏によるもので、物語は日本全国にある素晴らしい町を映画にもり込み、町をPRする。その中につるぎ町が舞台になる場面もありロケーションも行われる。その制作支援として実行委員会に補助金をだすものである。

- 質疑(小坂)**
■ 木綿麻温泉事業特別会計操出金の内容は

答弁

昨年度比較で340万1千円の増額で26年度からの繰越金がなかつたことと、濾過器の修繕のため増額となつてゐる。

質疑(伊庭)

- 広域農道整備事業の今後は

答弁

広域農道は平成27年度事業で半田6工区の舗装が完了し、平成28年度からは貞光柴内3工区のみの工事となる。柴内地区の上下をつなぐ工事が完成した後に、広域農道事業は完了となる。また、広域農道は県・町道に接続して終わることとなるが、一部の工区は接続出来ない。

- 質疑(長浦)**
■ 新たに災害廃棄物処理計画を策定するということであるが既存のものではいけないのか、またその内容は

答弁

舗装については、県・町道に接続しているところは、舗装して終わることになつてゐる。

- 質疑(小坂)**
■ 多面的機能支払交付金の内容は

答弁

水道使用料は前年の見込み額が低かつたため今回、増額予算となつてゐる。

- 質疑(小坂)**
■ 水道使用料が増額となつている要因及び八千代地区簡易水道の非常用発電機の現状は

答弁

水道使用料は前年の見込み額が低かつたため今回、増額予算となつてゐる。

- 質疑(小坂)**
■ 過去最高の売り上げとなつたが、今後の見通しは

答弁

は

- 質疑(小坂)**
■ 水道使用料が増額となつている要因及び八千代地区簡易水道の非常用発電機の現状は

答弁

は

- 質疑(小坂)**
■ 駐車場の規模から考えるとこれが限界だと考へている。また、対岸に新しい道の駅ができる予定であり、その影響も考へられる。

答弁

は

質疑(小坂)

- 管理委託料は全体の委託か

答弁

処理場全体の管理委託料である。

議案第24号

- 質問(小坂)**
■ 平成28年度つるぎ町簡易水道事業特別会計予算

答弁

は

- 報告第1号**
■ (株)貞光ゆうゆう館の平成27年決算及び平成28年事業計画等について

答弁

は

県から早期の作成を要請されているところである。

計画の内容については、国基づき巨大地震などの自然災害に備えて瓦礫や土砂といつた廃棄物の収集方法や仮置き場の候補地などをあらかじめ定める内容であり、専門的知識を要することからコンサルタントに業務委託を考えている。

議案第24号

- 質問(小坂)**
■ 水道使用料が増額となつている要因及び八千代地区簡易水道の非常用発電機の現状は

答弁

は

- 質問(小坂)**
■ 駐車場の規模から考えるとこれが限界だと考へている。また、対岸に新しい道の駅ができる予定であり、その影響も考へられる。

答弁

は

総務常任委員会

委員長 田野 一二三
副委員長 谷川 真二
委員 小坂 重夫
上家 吉田 光子
副議長 森長秀行

3月10日開催

総務常任委員会では、主に戸籍、税務、防災、管財、出納及び他の2つの委員会(文教厚生・産業建設)に属さない議案等について審査します

議案第1号

つるぎ町行政不服審査会条例

質疑(小坂)

■審査会委員の構成は

答弁

委員は町長から委嘱され審査委員は5名としたい。

質疑(吉田)

■期限は有るのか

答弁

一応、1年以内となつてある。それ以上になる場合は町長の許可が必要である。

審査を行う。

地方創生事業等の案内時に町を紹介する映像が無いため、町の映像イメージを映像化してPRするもので5分程度のものである。

議案第16号

平成27年度つるぎ町国民健康保険(事業勘定)事業特別会計補正予算(第3号)

質疑(小坂)

■保険給付費減額の要因は

答弁

一番の要因は被保険者の減少である。また団塊の世代が後期高齢者に移った場合は大きく減少する。

議案第3号

つるぎ町固定資産評価

審査委員会条例の一部を改正する条例

質疑(吉田)

■固定資産の評価はいつ行うのか

答弁

家屋については新築時に行う。また、大きな増築をした場合は再評価を行う。

議案第22号

平成28年度つるぎ町一般会計予算

質疑(谷川)

■町ホームページのリニューアルの時期は

答弁

今年度中に行う。

質疑(谷川)

■防災倉庫には何を保管するのか

答弁

防災倉庫には、非常食、飲料水、布団、毛布等を保管する。現在保管している

議案第6号

つるぎ町固定資産評価

健康保険(事業勘定)事業特別会計補正予算(第3号)

質疑(小坂)

■告知放送システムの改修予定期間は

答弁

光電話を設置している家庭にはすでに設備がついている。放送するためにはNTTに配信するコンピューターと役場に録音する設備の設置が必要となる。

本年度は本庁舎の改修工事があり、それに合わせて設置したいと考えている。

議案第2号

本庁舎改修工事完了の年度末までに行う。

質疑(谷川)

■防災倉庫には何を保管するのか

質疑(吉田)

■固定資産評価委員の業務内容は

答弁

評価委員は固定資産台帳に届けられた評価額に対

JICA(国際協力機構)から給料の8割が補助金として出る制度がある。

質疑(谷川)

■プロモーション動画作成

答弁

評価委員は固定資産台帳に届けられた評価額に対

する納税者から不服審査が出た場合に固定資産の評価が適正か否かについて

質疑(谷川)

■プロモーション動画作成

答弁

評価委員は固定資産台帳に届けられた評価額に対

する納税者から不服審査が出た場合に固定資産の評価が適正か否かについて

質疑(谷川)

■防災倉庫には何を保管するのか

答弁

防災倉庫には、非常食、飲料水、布団、毛布等を保

倉庫は湿気が多いなど管理状態が悪い状況であるため、湿度等が調整でき長

期間保存出来るよう防災倉庫を建築する。また、備蓄食糧等は避難する人の3日分は保存しなければ

ならないが、大きな予算と場所が必要となるので、一部備蓄と災害協定等を交わして流通備蓄で対応する。

質疑(谷川)

■防犯灯調査委託費の内

答弁

国費800万円と町費

59万7千円の事業で、現在、

町内に防犯灯は2216個あり、内236個をLED化している。その残りを

LED化にするための調査、計画書策定を行う。また、蛍光灯の寿命は約2年間であるが、LEDは約13年間使用出来る。

質疑(谷川)

■企業誘致の活動状況は

答弁

■固定資産税の税収が上がっているがその要因は

新築住宅等の増は多少

答弁

毎年、四国内に本社があり年商30億円以上、純利益1億円以上の会社を帝國データバンクから情報を入手し、ダイレクトメールを送っている。

また、徳島県の東京・大阪事務所にパンフレットを置き企業の関係があれば渡してもらっている。

時間がある時に飛び込み営業も行っている。

質疑(谷川)

■滞納整理機構の回収率

答弁

平成26年度決算では、移

管金額が532万7千円

のうち収入済み額が31

3万円で回収率は約59%

である。

質疑(小坂)

■標準宅地鑑定業務の内容は

答弁

がつているがその要因は

逆に基金よりも借金がどれだけあるかが問題になる。最低でも当初予算以

あるが、昨年度導入したシステムによって管理機能が上がったことと、前年度の収入実績を踏まえて予算の見直しを図ったためで、徴収が増えたわけではない。

度、28年度は大きな事業があるので、これを乗り切つて、

予算規模を落ち着かせたいと考えている。

質疑(小坂)

■木造住宅耐震診断委託料、民間木造住宅検査員委託料の内容は

答弁

木造住宅耐震診断委託料は民間の方の耐震診断委託料で20件分を予算計上

している。個人負担は3千円である。民間木造住宅検査員委託料は、各種耐震診断事業のための検査委託料である。15件分を予算計上

している。

質疑(小坂)

■標準宅地鑑定業務の内容は

答弁

单年度毎の見直しのため鑑定業務を委託している。

鑑定地点は町全体で標準宅地が61箇所である。

鑑定業務を委託している。個人負担は3千円である。民間木造住宅検査員委託料は、各種耐震診断事業のための検査委託料である。15件分を予算計上

している。

質疑(小坂)

■空き家を解体し更地にすると評価額が上がるのか

答弁

特例によって、土地にかかる固定資産税は、住宅が建つていれば6分の1に軽減さ

れるが、建物を取り壊して更地にすると税優遇がなくなる。軽減措置は、住宅用地で住宅1戸につき200m²以下の部分について設け

られる。倒壊すれば道路を2分の1程、塞ぐであろう建物が

6件ある。今年度その内2件を行う。耐震診断に個人負担は必要ないが、その後の耐震補強工事については個人負担が必要である。

られている。

質疑（小坂）

- 老朽危険空き家除却支援事業の個人負担は

答弁

補助金については限度額80万円であり、それ以上について個人負担である。

質疑（谷川）

- 新火葬場の業務委託は現在委託している業者に委託するのか

答弁

現在の業者に委託する。現在は1人体制であるが新火葬場は2人体制で行い施設管理も委託することになる。

その他

質疑（小坂）

- 半田にある逢坂医院や北室医院は歴史的に見ても貴重な建物である。町が文化財として管理し、後世に残していくよう検討していただきたい。

平成27年度後期徳島県町村議会議員研修会

平成28年3月29日(火)、後期徳島県町村議会議員研修会が、石井町中央公民館で開催され、県内の議会議員が出席しました。

研修会では、全国町村議会議長会議事調査部参与横田優氏の「議会運営の基本」と新潟県立大学国際地域学科准教授田口一博氏の「議員として活躍するためには」と題した講演を拝聴し、今後の議会活動に大いに参考になりました。



表紙の写真 於安パークのさくら

於安御前山に桜の花を植えよう」という素朴な地元有志の方々の取り組みから始まった自然公園。1000本を超える桜(ソメイヨシノ、ウスズミザクラなど)が咲き誇る県内でも有数の桜の名所。今年も見事に咲いていました。

議会の動き

2月5日

市町村トップセミナー
(正副議長)

2月12日

一部事務組合議会定例会
急傾斜地農業研修会(全議員)

2月24日

3月1日 県町村議会議長会定期総会及び自治功労表彰(議長)
議会運営委員会

3月7日 第1回定例会開会本会議

3月8日 文教厚生常任委員会

3月9日 産業建設常任委員会

3月10日 総務常任委員会

3月18日 第1回定例会閉会本会議

3月24日 「せせらぎの風」内覧会

3月29日 平成27年度後期徳島県町村議会議員研修会(全議員)

4月14日 議会広報編集常任委員会

世界農業遺産に向けた急傾斜地農業研修会

平成28年2月23日(火)、世界農業遺産認定に向けた、急傾斜地農業研修会が農業構造改善センターで開催され、篠原商工観光課長の概要説明の後、一宇剪字集落、明谷集落、貞光猿飼集落の現地視察を行いました。

現地視察では、雨にもかかわらず多くの方に集まっていたいただき、世界農業遺産に向けた取り組みに大変有意義な研修となりました。



- ①・②剪字集落
- ③・④明谷集落
- ⑤・⑥猿飼集落